

〈修士論文要旨〉

波をめぐる万葉歌表現

平川 紘章

『万葉集』には海の歌は膨大な数が詠まれているが、波の歌は海の歌の一つとしての扱いで、多くは詠まれている。だが、波の歌が存在するというのは事実であるので、波の歌から、波は万葉時代の人々にとってどのような存在であったのか、また、逆に波は人々にどのような影響を与えたのか、波と人との関わり、波と他の自然との関係を考えていくことにした。

第一章では、波の歌の数や種類を述べていき、波の歌の使われ方を考える。波の歌の元である海の歌を初めに考えていき、海と波との共通性、違いを考察する。

第二章では、波と人間の感情との関わりを挙げ、その中で『万葉集』に多く見られる恋の歌や別れの歌を題材にして考察する。

第三章では、人々の生活や旅において詠まれた歌を挙げて、波と人々の生活との関わりを考察する。また、波の歌には色に関わるものがあるので、波の色ごとによる違いを考察する。

第四章では、土地の名がよく用いられている川の波の歌を挙げ、土

地ごとの川の波について考えた。また、鳥もよく波の歌に詠まれており、鳥と波との繋がりについても考察する。

以上の考察から、万葉時代の人々は、波には神の力、霊力というものがあ、波がその力を自在に操り、人々に大きな影響を与え、その結果として、人々の持つ感情の波が良い方向、悪い方向へと揺さぶっている、という結論に至った。